

## 第2章 本市のごみ処理の現状と課題

### 1 ごみ処理実績

#### (1) 種類別排出量の推移

本市のごみの排出量の推移を以下に示します。

経年変化を見ると、概ね減少傾向にあります。令和元年度は微増していますが、これは台風などによる災害ごみが増加したことが主な要因と捉えています。

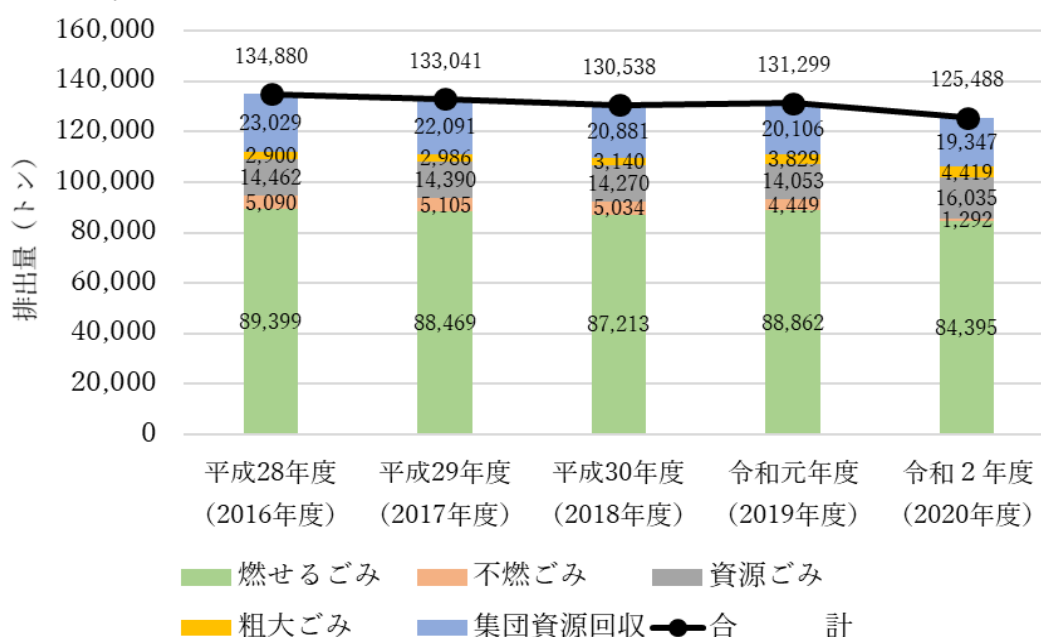


図 2-1 ごみ排出量の推移

表 2-1 ごみ排出量の推移

(単位：トン)

	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)
燃せるごみ	89,399	88,469	87,213	88,862	84,395
不燃ごみ	5,090	5,105	5,034	4,449	1,292
資源ごみ	14,462	14,390	14,270	14,053	16,035
缶・びん・ペットボトル	6,621	6,522	6,311	6,171	6,304
容器包装プラスチック	7,724	7,746	7,835	7,747	7,268
乾電池等	110	111	115	122	157
枝草	-	-	-	-	2,292
その他	7	11	9	13	14
粗大ごみ	2,900	2,986	3,140	3,829	4,419
集団資源回収	23,029	22,091	20,881	20,106	19,347
合計	134,880	133,041	130,538	131,299	125,488

注) 枝草は令和元年度まで燃せるごみとして処理し、令和2年度から資源化しています。(事業系のみ)

## (2) 資源化量・資源化率

本市における資源化量と資源化率\*の推移を以下に示します。

令和2年度は事業系の枝草の資源化を開始したため上昇しています。

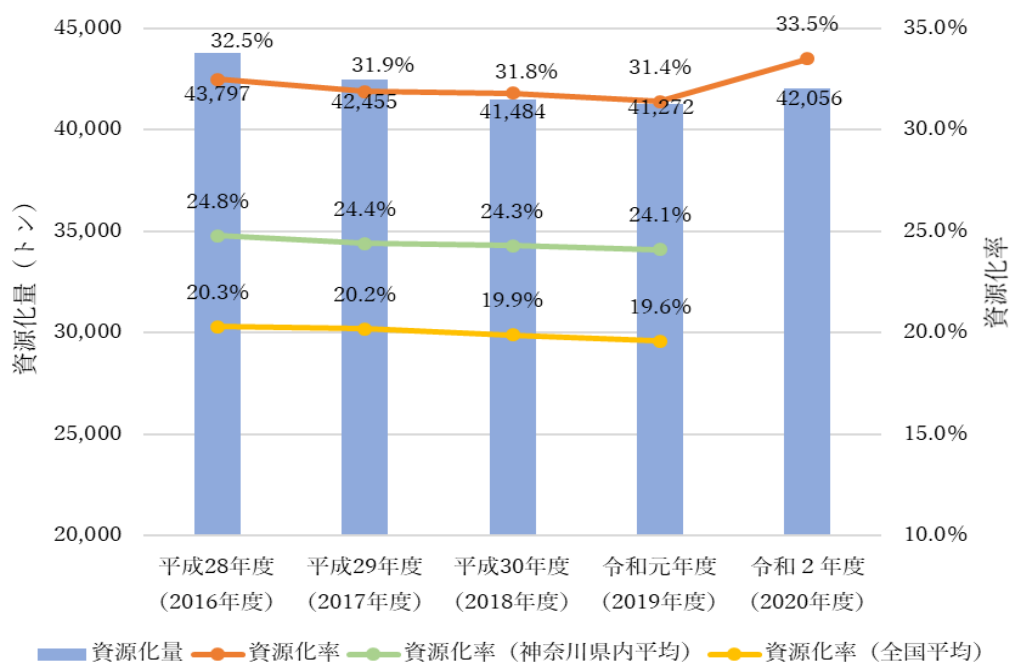


図 2-2 資源化量・資源化率の推移

表 2-2 資源化量の推移

(単位：トン)

	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)
リサイクルプラザ	18,777	18,613	18,227	17,785	18,092
集団資源回収	17,702	16,855	15,834	15,127	13,720
焼却灰スラグ化ほか	6,854	6,549	6,945	7,517	7,117
粗大金属ほか	464	438	478	843	1,046
枝草	-	-	-	-	2,081
合 計	43,797	42,455	41,484	41,272	42,056

表 2-3 資源化率の推移

(単位：%)

	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)
資源化率	32.5	31.9	31.8	31.4	33.5
神奈川県内平均資源化率	24.8	24.4	24.3	24.1	-
全国平均資源化率	20.3	20.2	19.9	19.6	-

資料：神奈川県一般廃棄物処理事業の概要、日本の廃棄物処理（環境省）

【用語解説】 \* 資源化率：資源化量をごみ総排出量で除した数値

### (3) 1人1日排出量

本市におけるごみの1人1日あたり排出量（集団資源回収を含む）の実績を以下に示します。

経年変化をみると、令和元年度は増加に転じていますが、概ね減少傾向にあります。

神奈川県平均と全国平均と比較すると、全国平均を下回っているものの、県内平均を上回っている状況です。

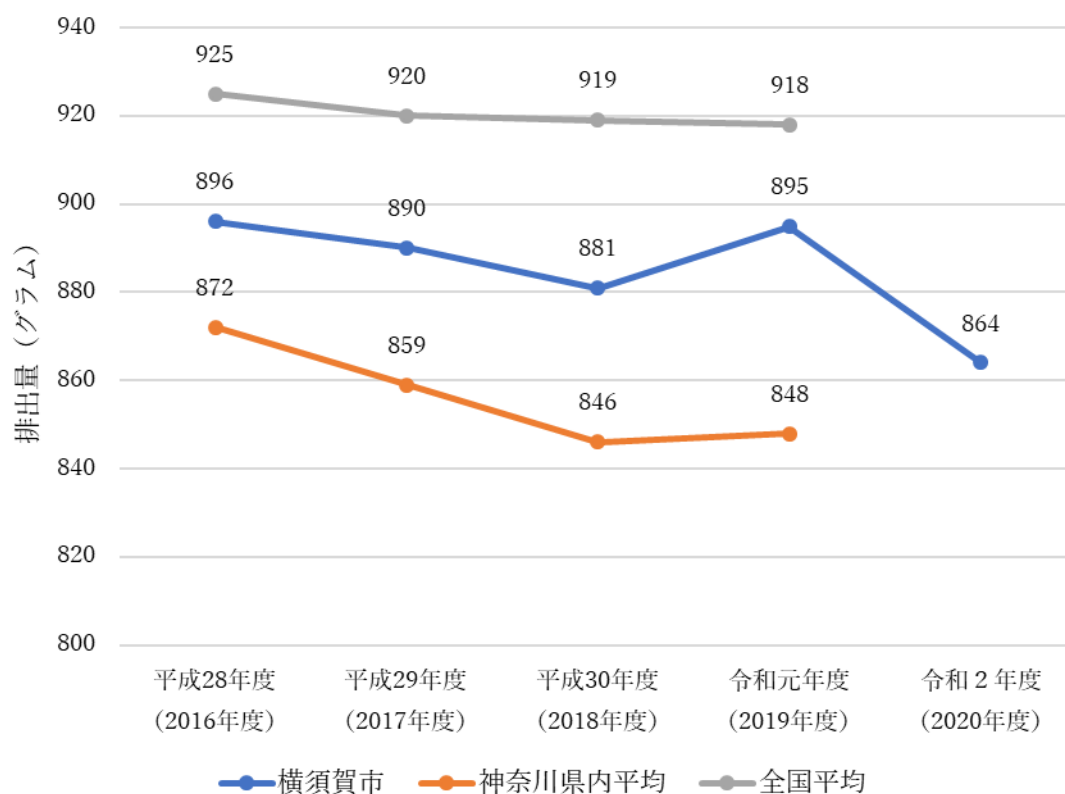


図2-3 1人1日排出量の推移

表2-4 1人1日排出量（集団資源回収を含む）の比較

(単位：グラム)

	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
横須賀市	896	890	881	895	864
神奈川県内平均	872	859	846	848	—
全国平均	925	920	918	918	—

資料：神奈川県一般廃棄物処理事業の概要、日本の廃棄物処理（環境省）

#### (4) ごみ処理経費

本市のごみ処理経費の推移を示します。

令和2年度は横須賀ごみ処理施設エコミルの稼働による、人員配置や処理の委託方法の変更などにより収集運搬費、中間処理費が増加しています。

また、三浦市の最終処分場の稼働により、最終処分費は減少しています。

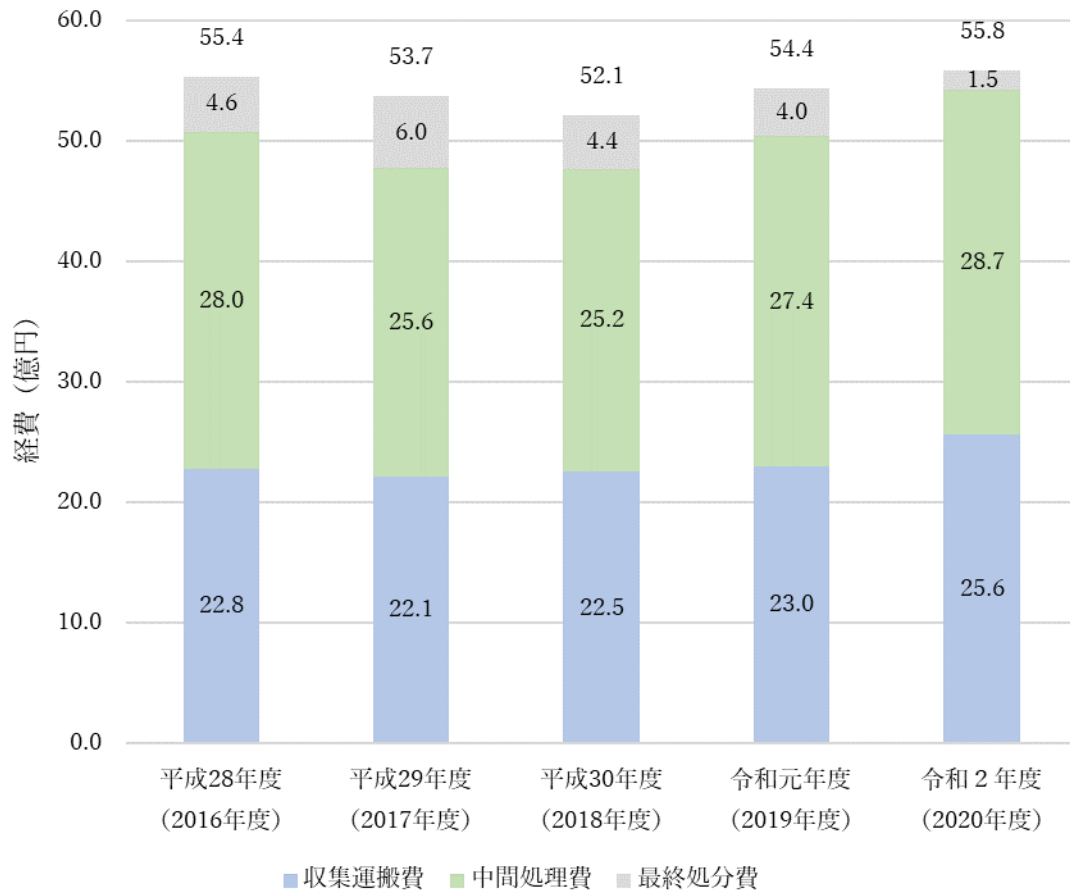


図2-4 ごみ処理経費の推移

## 2 ごみ処理フロー

本市で処理しているごみの種類、それぞれのごみの搬入先や処理方法を以下に示します。

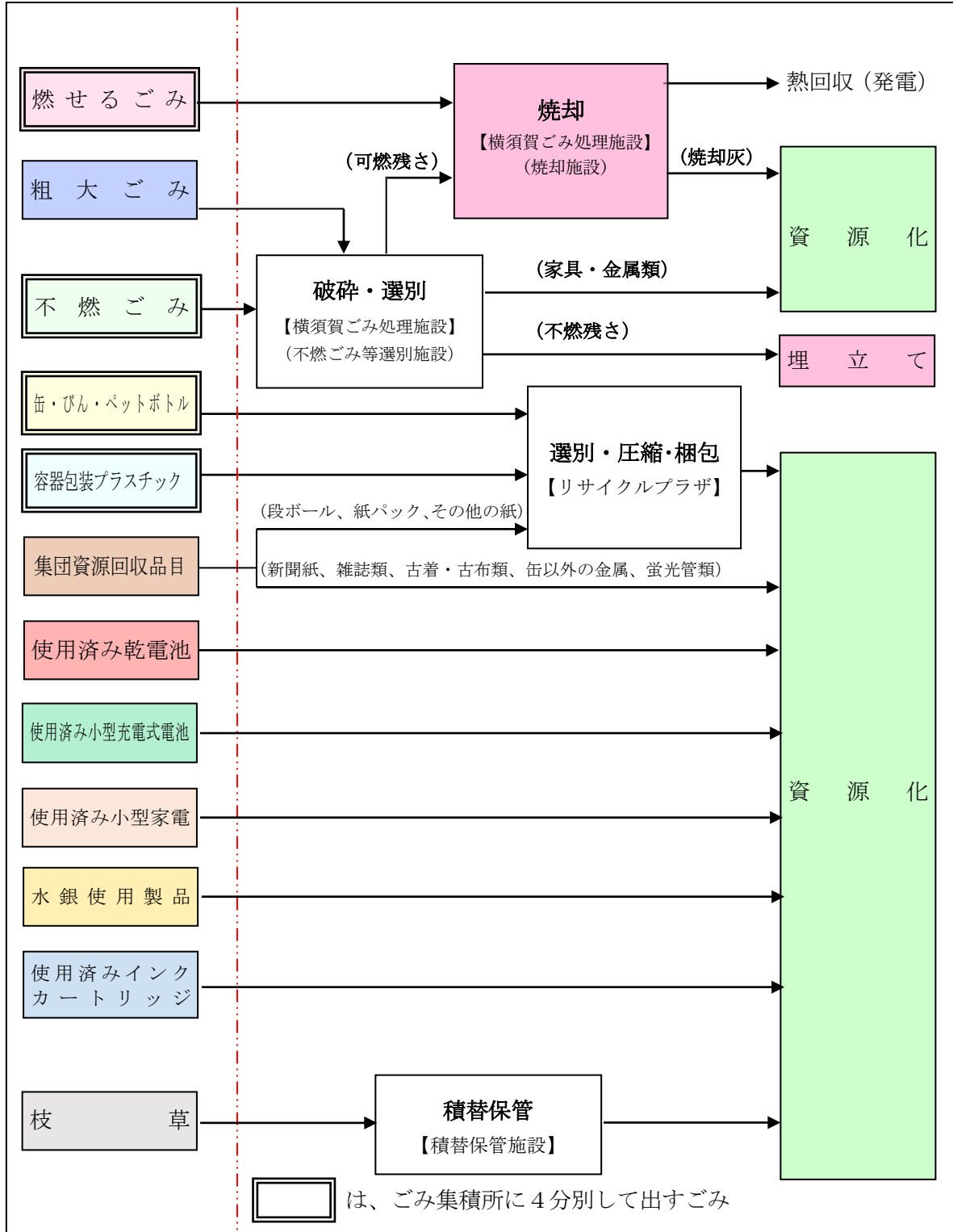


図 2 - 5 ごみ処理フロー

### 3 広域化による処理

本市と三浦市は、協力してごみ処理に取り組む広域化を推進する目的で、平成21年3月に横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画を策定しました。

2市が共同してお互いの施設を利用することにより、環境負荷の低減、資源化の推進および効率的なごみ処理システムの構築を目指して、横須賀市に「横須賀ごみ処理施設」を、三浦市に「最終処分場」を整備しました。

令和2年3月から燃せるごみ、不燃ごみおよび粗大ごみを横須賀ごみ処理施設へ運搬し処理しています。

燃せるごみの焼却後に発生した焼却灰や不燃ごみ・粗大ごみを選別して得られた金属類を資源化し、不燃残さ\*については三浦市の最終処分場へ搬出しています。



図 2 - 6 地域図

【用語解説】 \* 不燃残さ：不燃ごみ、粗大ごみから資源物を選別した後に残るもの  
(主なものは資源物以外の金属や陶磁器類、ガラス類)

## 4 施設の概要

### (1) 横須賀ごみ処理施設「エコミル」

#### ① 焼却施設

燃せるごみ、不燃ごみ等選別施設からの可燃残さなどを焼却処理し、サーマルリサイクル\*を行っています。

焼却処理に伴って発生する熱を回収して発電を行い、焼却処理施設内で利用するとともに電力会社に売電しています。

所在地	横須賀市長坂5丁目1番1号
しゅん工	令和2年2月
焼却能力	120トン×3炉/日=360トン/日
発電能力	6,600キロワット
炉数	3炉
炉形式	ストーカ炉/全連続燃焼式

#### ② 不燃ごみ等選別施設

不燃ごみと粗大ごみを処理対象とし、破碎選別処理を行っています。

選別された金属類は資源化します。可燃残さは焼却施設で焼却し、不燃残さは三浦市の最終処分場で埋め立て処分しています。

所在地	横須賀市長坂5丁目1番1号
しゅん工	令和2年2月
処理能力	30トン/5時間
処理方式	破碎選別



【用語解説】 \* サーマルリサイクル：廃棄物の処理の際に発生する熱を、エネルギーとして回収して利用すること。本市では発電に利用しています。



## (2) リサイクルプラザ「アイクル」

リサイクルプラザは、資源ごみを再資源化するための中間処理施設であり、容器包装リサイクル法（正式名称：容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律）に基づく、缶類、びん類、プラスチック類および紙類の4種類10品目の全てに対応しています。

平成13年4月に稼働を開始してから20年が経過し、プラント設備の各機器に経年劣化が進んでいますが、設備点検や修繕等に対応し安定稼働を確保できるよう対策を講じています。

所在地	横須賀市浦郷町5丁目2931番地
しゅん工	平成13年3月
処理能力	220トン/日（5時間）（容器包装廃棄物の選別・圧縮こん包）



## (3) 積替保管施設

事業系剪定枝のうち、市内の民間資源化処理施設へ持ち込みできない草などを受け入れ、たい肥化等を行う資源化処理施設へ搬出しています。

所在地	横須賀市長坂5丁目3656番地
しゅん工	平成27年2月
延床面積	972.81 m <sup>2</sup>





#### (4) 最終処分場（三浦市）

広域処理施設として三浦市が整備した施設です。

不燃ごみ等選別施設からの不燃残さを処理対象として埋立処分しています。

所在地	三浦市三崎町六合字堂ヶ島 1848 番 1
しゅん工	令和 2 年 2 月
埋立容量	48,900 m <sup>3</sup>
処分場形式	屋根付き（クローズド型）処分場



図 2-7 横須賀市、三浦市施設位置図

## 5 前計画の評価

平成29年3月に改定した前計画では「ごみ処理広域化計画による施設整備の推進」「継続的な減量化・資源化啓発事業の実施」「植木剪定枝等新規資源化策の実施」の3つの重点施策を掲げ、令和3年度における排出量等を目標値として設定していました。

### (1) 前計画における目標値の達成状況

目標年度である令和3年度のごみ処理実績数値は令和4年6月頃に確定します。

令和3年度のごみ処理実績が確定次第、別途達成状況の検証を行います。

表2-5 前計画の評価

	平成27年度 (2015年度) 【基準】	令和3年度 (2021年度) 【目標値】	令和2年度 (2020年度) 【実績】	目標値と実績 の比較
発生・排出量 (うち集団資源回収)	138,355トン (24,262トン)	123,000トン (23,000トン)	125,488トン (19,347トン)	2,488トン (△3,653トン)
焼却量	93,409トン	82,400トン	85,394トン	2,994トン
埋立量	5,352トン	1,700トン	663トン	△1,037トン
資源化量	45,197トン	44,000トン	42,056トン	△1,944トン
資源化率	32.7%	36%	33.5%	△2.5%
1人1日排出量 (集団資源回収除く)	750グラム	695グラム	731グラム	36グラム
参考 1人1日排出量 (集団資源回収含む)	910グラム	854グラム	864グラム	10グラム

### (2) 重点施策の達成状況

#### ① ごみ処理広域化計画による施設整備の推進

横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画及び横須賀ごみ処理施設整備実施計画に基づき、横須賀ごみ処理施設の建設を進め、令和2年3月から稼働を開始しました。

#### ② 継続的な減量化・資源化啓発事業の実施

ごみ分別パンフレットや分別収集カレンダーの発行、広報紙を活用した啓発、児童生徒に対するごみ教室、学生を対象にした啓発活動、ごみトークの開催、アイクルフェアなどイベントの開催、クリーンよこすか市民の会などの市民協働による啓発活動を実施しました。

### ③ 植木剪定枝等新規資源化策の実施

令和元年11月から事業系剪定枝は市の焼却施設ではなく、市内の民間資源化処理施設へ持ち込み先を変更し、民間資源化処理施設へ持ち込みができない草等及び地域団体等の清掃活動等で分別された剪定枝は積替保管施設へ持ち込むこととしました。

積替保管施設に搬入された剪定枝（枝草）は令和2年4月から民間の資源化処理施設へ搬出し、たい肥化等による資源化を開始しています。

## 6 ごみ処理の課題

ごみの発生、排出から最終処分までの段階ごとに、次のような課題があります。

### (1) 発生・排出

本市では少子高齢化が進行し、人口減少により、ごみの発生・排出量も減少していくと考えられます。

ごみの分別は市民の方々にご協力いただき、資源化率も全国平均よりも高くなっていますが、一部排出ルールの不徹底やごみ集積所でのごみの散乱が見られます。

また、高齢者の方から分別やごみ集積所への排出が困難との声があります。

### (2) 収集・運搬

ごみ収集車両やごみ処理施設の火災を防止するため、スプレー缶やライター、卓上コンロのガスボンベ、リチウムイオン電池などは適正に排出されるよう周知、啓発を図っていますが、いまだ混入が見られます。

また、高齢者等に対する収集支援の拡充について検討する必要があります。

### (3) 処理・処分

再資源化施設のリサイクルプラザでは2重袋による排出や汚れの落ち切れていない容器包装プラスチック、異物の混入がリサイクルシステムに大きな影響を与えており、引き取り先による品質評価も厳しい状況にあります。施設の長寿命化や改築も含め、分別の変更等を検討し品質を向上させていくことが必要です。

令和2年3月から稼働を始めた横須賀ごみ処理施設が円滑に運営されているか、また積替保管施設、資源循環久里浜事務所などについては将来的な運用を見据え、適切に管理、運用されているか確認していく必要があります。